

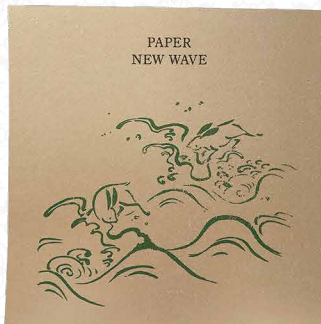
紙のけしき

琳派の酒井抱一は、江戸末期に光琳と宗達から琳派を受け継ぎ、再び花を咲かせました。特に絵を描く紙と箔に工夫を重ねたようです。最近では、金箔をしつらえた光琳の「風神雷神」の屏風の背景に銀の箔を使い、秋草を見事に描いたものが、メディアで紹介されています。

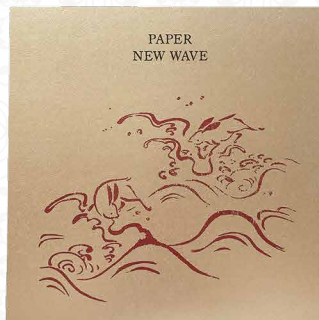
今回は、それを参考に「卯波図」という絵をアスカの銀Fとエースの金Fに二色で表現、OKD92Fは四色で表現しました。そしてもう一つご紹介するのは、エースの金に直接絵の具で描いた絵画です。

どの作品も、紙の特性が生かされており、まさにペーパーニューウェーブが起こっている作品ではないでしょうか。

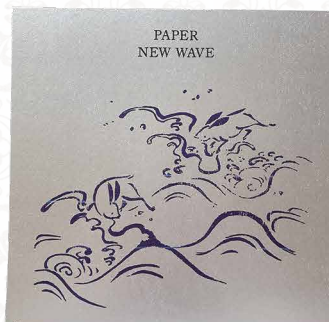
琳派の方々も、きつと使ってみてくださった紙たちでしょう。



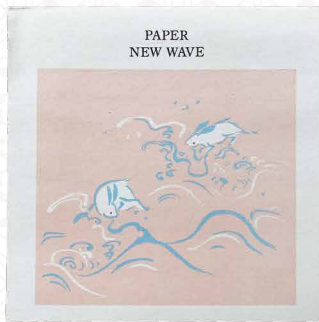
エースの金F × 墨と緑



エースの金F × 墨と朱



アスカの銀F × 紺



OKD92F × 四色



エースの金F × アクリル絵の具
by illustrator KANAKO HOSHINO

